

【ポスター発表】

兵庫県西播磨圏域における介護保険事業計画の取り組み —市町介護保険担当者を中心とした聞き取り調査を通じて—

○関西福祉大学 萬代 由希子 (6221)

キーワード：介護保険事業計画、高齢者、地域特性

1. 研究目的

本報告は、兵庫県西播磨圏域にある4市3町の介護保険担当者を中心に聞き取り調査を行い、介護保険事業計画の取り組みについて明らかにすることを目的としている。

兵庫県西播磨圏域の市町とは、たつの市、宍粟市、相生市、赤穂市、太子町、上郡町、佐用町の4市3町であり、圏域の東側は姫路市、西側は岡山県に隣接する位置にある

(図1)。介護保険事業計画の現状と課題を明らかにすることによって、次期介護保険事業計画策定に向けて資するものとした。先行研究である厚生労働省の調査「第5期市町村介護保険事業計画の策定過程等に係るアンケート調査」に基づき、独自項目を取り入れたインタビューガイドを作成し、本調査と全国調査の比較も行った。

なお、本研究は、兵庫県西播磨県民局との協働研究である。



図1 西播磨圏域全図

2. 研究の視点および方法

調査期間は、平成25年8月～9月である。調査対象者は、西播磨圏域4市3町の市町介護保険担当者、地域包括支援センター担当者、社会福祉協議会職員等であり、市町ごとに、1時間～1時間30分程度のインタビューガイドを用いた半構造化面接をおこなった。

聞き取り内容は、「第5期の市町介護保険事業計画のプロセスと課題」、「介護保険の給付状況の分析」、「認知症高齢者の増大に対する取り組み」など、主に10点である。聞き取り内容は、項目ごとに整理した。また、インタビュー内容全体に対し、KJ法によるまとめを行った。

3. 倫理的配慮

本報告は、日本社会福祉学会研究倫理指針を遵守している。

4. 研究結果

聞き取り調査から明らかとなった課題について挙げたい。第5期介護保険事業計画策定における日常生活圏域ニーズについて調査を実施し、7市町のうち2市町が未実施であった。実施した5市町に対し「日常生活圏域ごとの課題、ニーズが把握できたか」という質問については、「実態をつかむことができた」との回答があったが、その一方で「調査結果をうまく取り入れることができなかつた」と回答した市町もあった。そのことから、本事業計画の策定において、市町が日常生活圏域ニーズ調査の結果をうまく取り入れることができないという一面を明らかにすることができた。更に、KJ法によるまとめから、次の4点の課題が明らかとなった。第1に、第5期介護保険事業計画策定における課題として、「介護保険料の設定の困難さ」、「予算への反映の困難さ」、「日常生活圏域ニーズ調査結果の反映の困難さ」、「直接住民と意見交換する場の不足」、「市町独自の工夫がない」ことなどが明らかとなった。第2に、高齢者の生活を支える上での課題として、「認知症高齢者増大への体制づくり」、「高齢者の移動手段の確保」、「高齢者の買い物への支援」、「高齢者の見守りネットワークの構築」などが明らかとなった。第3に、機関・支援者における課題として、「地域包括支援センターの認知度の低さ」、「地域包括支援センターへの評価が実施されていない」、「地域包括ケアシステムの構築」などが明らかとなった。最後に、第6期介護保険事業計画策定過程における課題として、「要支援者を支える体制づくりの検討」、「社会資源を把握し計画的に展開する方法の検討」など明らかとなった。

5. 考察

調査の結果から、「①第5期介護保険事業計画策定過程では日常生活圏域ニーズ調査を実施していなかつた」、「②調査を実施した自治体においても日常生活圏域ニーズ調査の結果をうまく取り入れることができなかつた」などの課題を明らかにすることができた。更には、西播磨圏域の4市3町すべての自治体が、課題として「高齢者の移動手段の確保」を挙げられたことから、「広域」、「人口の減少」、「限界集落がある」といった当圏域の地域特性に関連する課題が顕著に出た結果となった。

したがって、各自治体が次期介護保険事業計画の策定するにあたっては、当圏域の地域特性をふまえた上で、地域に密着した計画策定を切に望みたい。

■参考文献

HP：厚生労働省(2012)『第5期市町村介護保険事業計画の策定過程等に係るアンケート調査結果について』(<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002hvi8.html>)